

【タイトル】

鋤田正義展

SUKITA RETROSPECTIVE

SOUND&VISION

【概要】

鋤田正義（1938～）は、デヴィッド・ボウイや T.REX のマーク・ボラン、YMO や布袋寅泰ら国籍を超えてミュージシャンから圧倒的な支持を受けているのをはじめ、広告写真、テレビコマーシャル、映像作品など幅広いフィールドで常に第一線で活躍し続けている写真家です。70年代から現在に至るまで深い信頼で結ばれているデヴィッド・ボウイが冷戦下のベルリンで録音した名盤『LOW』に収録された「SOUND & VISION」をタイトルに冠したこの展覧会は、その鋤田正義の全仕事を俯瞰するものです。

1956年頃、高校時代に撮影した母親の写真からはじまり、リー・モーガンなどのジャズ・ミュージシャン、寺山修司の天井桟敷、ニューウェイヴのミュージシャンたちから、現代の俳優やアーティストに至るまで対象は多岐にわたり、撮影した場所も世界中の都市にまたがっている鋤田の写真。それはビートニクのような風貌をした鋤田の永遠に終わることのないロードムービーのようなものであり、“音の響きと映像の不思議さ”を感じさせてくれます。

常にカルチャーと並走しながら、自らシーンに入り込んで撮影された写真は、時代の記録であるとともに、時代を超えているパワーと、ボウイが「SOUND & VISION」で示唆した“驚き”があります。絶対に見逃すことのできない“RETROSPECTIVE（回顧展）”です。



【会場】

東京都写真美術館 地下1階展示室

〒153-0067 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TEL : 03-3280-0099 www.syabi.com

【会期】

2012年8月11日(土)～9月30日(日)

開館時間：10:00～18:00（木、金は20時まで）＊入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日または振り替え休日の場合翌日休館）

【観覧料】

(税込)：一般 800 (640) 円、学生 700 (560) 円、中高生・65 歳以上 600 (480) 円。() 内は 20 名以上の団体料金および東京都写真美術館友の会会員、パルコミュージアム 鋤田正義写真展「きれい」の半券をお持ちの方。

小学生以下、お身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料、第 3 水曜日は 65 歳以上無料。

【制作】

主催：鋤田正義展実行委員会

共催：東京都写真美術館、朝日新聞社

プロデュース：立川直樹

協賛：フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社、株式会社 金鳳堂、麒麟ビール株式会社、東京リスマチック株式会社、金沢工業大学

会場デザイン：岸健太

エディトリアルデザイン：羽良多平吉

【問い合わせ】

■ 媒体で告知をしていただける場合は東京都写真美術館でお願いいたします。

東京都写真美術館 www.syabi.com

TEL：03-3280-0099

■ スポンサー関係やタイアップなどのお問い合わせは立川事務所へお願いいたします。

立川事務所

TEL：03-5474-5831 FAX：03-5474-5832

メール：t_office_m@yahoo.co.jp

■ テレビやラジオ、出版物などの鋤田本人取材につきましては鋤田事務所へお願いいたします。

鋤田事務所

TEL：03-5426-1948 FAX：03-5426-1947

メール：sukitax@nifty.com

■ 出版物の掲載につきましては鎚木にお願いいたします。

鎚木朋音（かぶらぎ・ともね）

TEL：090-8509-4707

メール：tomone@hitstudio2000.com

【展示作品】

《Early Days, Mother/JAZZ/九州》



▲左は 1956 年頃、高校時代に撮影した母親の写真、右は JAZZ シリーズ(1967 年~)

《デヴィッド・ボウイ》



70 年代から現在まで撮り続けているデヴィッド・ボウイの写真を未公開の作品も含めて展示。

《NY/PUNK/Rock & Roll》

70 年に訪れたニューヨークでの寺山修司公演、70 年代 半ばのロンドンパンクなど、自らシーンに入り込んでサブカルチャーやロックンロールの初動を捉えた作品群。





▲ ▶ニューヨーク（左／1970年、ラ・ママにて）、ロンドン、
キングスロードのテディボーイズ（右／1976年）

《Vision1》

ハワイ、ニューヨーク、南部などアメリカを旅しながら撮影したモノクローム作品。



《Yellow Magic Orchestra/忌野清志郎/布袋寅泰》

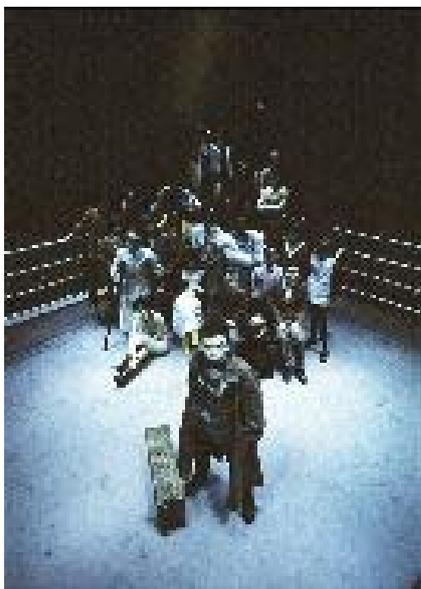


▲ 忌野清志郎、▶ Yellow Magic Orchestra



《Motion Pictures》

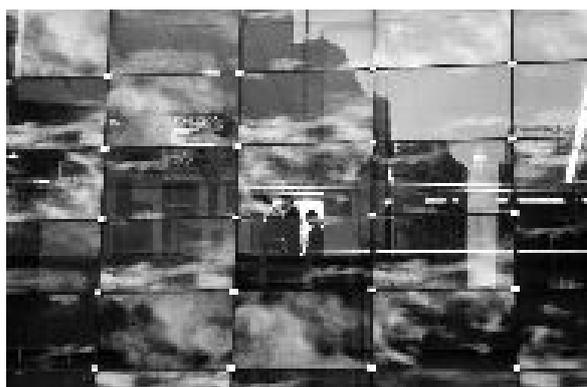
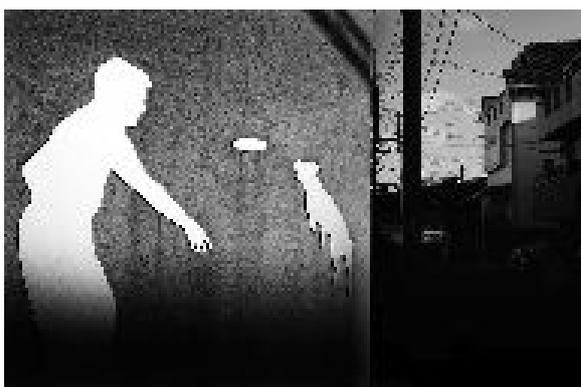
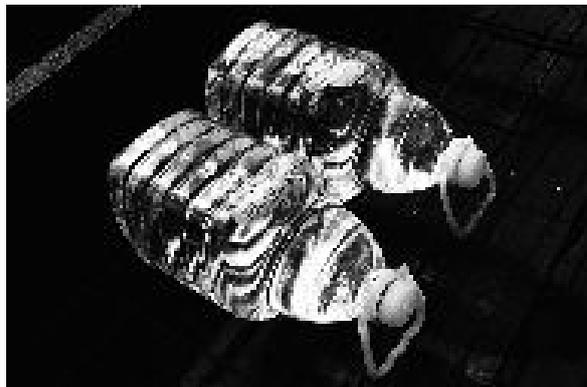
『書を捨てよ町に出よう』（寺山修司）、『ミステリー・トレイン』（ジム・ジャームッシュ）、『花よりもなほ』『ワンダフルライフ』（是枝裕和監督作品）など映画のスチールやオフショットを集めて。



◀『書を捨てよ町に出よう』、▲『ミステリー・トレイン』

《Vision2 東京画+》

2011.3.11 以降の東京を歩いてモノクロで切り取った風景たち。



《実験作品》

発表の場を考えず、作品として撮影した写真をボックスにして展示。



《ポートレート》

アーティストを中心に撮影したポートレートをバナーとして壁面一面に張り巡らして展示。



イギー・ポップ、ブライアン・イーノ、エルビス・コステロ、ジョー・ストラマー、ジョージ・ルーカス、ジム・ジャームッシュ (写真左)、デヴィッド・シルヴィアン、デヴィッド・ボウイ、ヴィヴィアン・ウエストウッド、ローリー・アンダーソン、アダム・ジ・アント、イ・ビヨンホン、山本寛斎 & キース・エマーソン (E.L.P.)、キング・サニー・アデ、ビリー・アイドル (ジェネレーション X)、マーク・ボラン (右/

T.REX)、エイドリアン・ブリュー、デヴィッド・バーン (トーキング・ヘッズ)、アナベラ (パウワウワウ)、B-52's、ヴィッキー (モデル・女優)、ジョン・ライドン (P.I.L.)、ボーイ・ジョージ、ポリス、イヴオンヌ・エリマン、レイ・チャールズ etc



[国内]

アイ・ジョージ、マイク真木、忌野清志郎、内田裕也、大竹しのぶ（右下）、小沢健二、加藤和彦、加山雄三、吉川晃司、木村カエラ（右）、小泉今日子（左下）、沢田研二、シーナ&ザ・ロケッツ、スネークマンショー、戸川純、永瀬正敏、プラスチック、氷室京介、山口富士夫（村八分）、忌野清志郎、矢野顕子、オレたち（箭内道彦）、矢沢永吉、ブランキー・ジェット・シテイ、浅井健一、プリンセスプリンセス、坂田明、PANTA、ミカ、サディスティック・ミカ・バンド、ジョー山中、チェッカーズ、土屋昌巳、東京ムードパンクス（リリー・フランキー）、マルコシアス・バンプ、吉田美奈子、吉井和哉、Phew、Char、高橋優、黒猫チェルシー、宮沢りえ、グループ魂、阿部サダヲ（下）、佐野元春、etc



【バイオグラフィー】

1938年 福岡県直方市に生まれる。

1954年 直方高校入学。

1956年 母親に買ってもらったリコーフレックスで、母親のポートレートを撮る。

駅の操車場の夜の風景を写した写真が、写真雑誌『月例』に入選。

1958年 日本写真専門学校入学。入学祝いにミノルタオートコードを買ってもらう。後にデルタモンドと一緒に仕事をするようになる宮原哲夫と出会う。

1960年 日本写真専門学校卒業、棚橋紫水に師事。

1961年 大広に入社。スタジオに泊まり込み、写真漬けの日々を過ごす。

1963年 アイ・ジョージの「カーネギーホールへの道」で第3回APA 展会員会長賞受賞。

1965年 上京、原宿のセントラルアパートにあるデルタモンドに入社。

メンズファッションブランド「JAZZ」の仕事に関わる。

第5回APA 展に、佐世保の原子力潜水艦入港反対運動を撮影した「平和の願い」を出品。

1968年 「FLOWER」で第8回APA 展会員会長賞受賞。

1970年 フリーランスとして独立。ニューヨークに行き、数々のライブに足を運び多くのミュージシャンを撮影。

寺山修司の『毛皮のマリー』のニューヨーク公演を撮影、後に「ラ・ママ」として発表。

「JAZZ」のポスターでADC 賞銅賞受賞。

第10回APA 展に「女」を出品。

『カメラ毎日』11月号の表紙を撮影。

1971年 寺山修司監督作品『書を捨てよ町へ出よう』ムービー撮影。

「JAZZ」のTVCFでADC 賞受賞。

第11回APA 展に「フレンド」を出品。

1972年 音楽雑誌を見て、男が化粧をしていることに衝撃を受け、T. REX を撮りにロンドンへ。直接交渉し、撮影した写真が現地の音楽紙『メロディ・メーカー』一面に大きく掲載される。

東京で「T. REX」写真展。

デヴィッド・ボウイにも直接会って交渉し、撮影をする。その写真は大きく伸ばしてコンサート会場に飾ってくれた。

1973年 デヴィッド・ボウイ来日。ツアーに同行して撮影。

1974年 青葉益輝、浅葉克己、加納典明、黒田征太郎、長友啓典、日暮真三らが作ったグループ「サイレンサー」に参加。展覧会や作品集『サンドイッチサイレンサー』に作品を寄せる。

サディスティック・ミカ・バンド『黒船』レコード・ジャケット撮影。

1975年 サディスティック・ミカ・バンド『Live in London』レコード・ジャケット。

1976年 パンタ『Pantax Wolrd』レコード・ジャケット。

1977年 「Woman フォトセッション」5月号、「PUNKS ロンドンの若者たちが、いま…」11月号 ともに『カメラ毎日』

デヴィッド・ボウイ『ヒーローズ』、今井祐『A Cool Evening』、サディスティックス『Sadistics』、高中正義『Takanaka』『A Insatiable High』、パンタ『走れ熱いなら』レコー

ド・ジャケット。

1978年 桑名晴子『Million Stars』レコード・ジャケット。

パルコ「時代の心臓を鳴らすのは誰だ」(沢田研二)ポスター。

1979年 YMO『Solid State Survivor』レコード・ジャケット。

富士写真フィルム「音楽は磁世紀に入った」(YMO)、パルコ「男たちについて語りあう日がやってきた」(沢田研二)ポスター。

1980年 沢田研二写真集『水の皮膚』

YMO『増殖』『Public Pressure』、大貫妙子『Romantique』、シーナ&ロケット『Channel Good』、パンタ&ハル『1980X』『TKO Night Light』レコード・ジャケット。

ADC 賞受賞「西武百貨店 MILANO:5」ポスター。

富士写真フィルム「音楽は104番目の元素だ。」(YMO)ポスター。

1981年 新潮社「新潮文庫の100冊 道篇 海篇」(坂本龍一) TVCF。

坂本龍一『左うでの夢』、イギー・ポップ『PARTY』、大貫妙子『Aventure』レコード・ジャケット。

ホンダ「ホンダ CITY CITY 誕生」(マッドネス) TVCF。

1982年 一風堂『Lunatic Menu』、クリス・モズデル&ザ・ジャヴェリン・オペラ『Equasian』、高橋幸宏『What Me Worry』、立花ハジメ『H』、土屋昌巳『Rice Music』レコード・ジャケット。

ホンダ「ホンダ CITY カンフー」(マッドネス) TVCF。

1983年 土屋昌巳写真集『ALONE』(CBS ソニー出版)

沢田研二『女たちよ』、渡辺香津美『Mobo』レコード・ジャケット。

サントリー「RUM/Tequila」「サントリー・ペンギンズ・バー」ポスター。

1984年 ザ・ロケッツ『Rocket Size』、渡辺香津美『Mobo 倶楽部』レコード・ジャケット。

フランス文化省「Tradition et Nouvelles Techniques」、パルコ「エブリバデ、大統領ッ。」、BIGI「YOSHIE INABA PURFUME」ポスター。

ビデオ作品『餓鬼魂』監督。

1985年 ポール・シュレイダー『MISHIMA』スチール撮影。

シーナ&ザ・ロケッツ『Main Songs』、土屋昌巳『Tokyo Ballet』、渡辺香津美『Mobo Splash』レコード・ジャケット。

西武百貨店「元禄ルネッサンス。」、NTT 企業ポスター。丸井「そろそろ次のこと。丸井'85 足並み」 TVCF。

1986年 山下久美子『Blonde』『1986 Kumiko Yamashita』、遠藤ミチロウ『破産』レコード・ジャケット。

ソニー「リバティ VOICE of LIBERTY」、リクルート「週刊就職情報」、サントリー「モルツ」ポスター、丸井「そろそろ次のこと。丸井キャンペーン 砂丘篇 湖篇」 TVCF。

1987年 ADC 賞受賞「西武百貨店 ラコステ事業部/ラコステ こんにちは」ポスター。

シーナ&ザ・ロケッツ『#9』、ロン・カーター『Very Well』レコード・ジャケット。

サッポロビール「SAPPORO DRAFT BEER」、日本テレビ放送網「Annie」ポスター。

1988年 ジム・ジャームッシュ監督作品『ミステリー・トレイン』スチール撮影。

『ミステリー・トレイン』サウンド・トラック、ティアドロップス『らくガキ』、ティン・マシーン『Tin Machine』レコード・ジャケット。

ダーバン「独身男の NABRUD」ポスターなど。武田薬品工業「タケダ ベンザエース 横ばしり篇」、ソニー「ウォークマン さる、どこまで行ったら 草原篇」、丸井「'88 丸井新宿店インテリア館」TVCF。

1989年 写真集『ミステリー・トレイン』

1990年 JR 東日本「ニュースを2つお知らせします」ポスター。

1991年 長尾直樹監督作品『東京の休日』ムービー撮影。

アサヒビール「J.O. 江口コンビニ篇」、三菱電機「霧ヶ峰 コスモライン LDK ソング」TVCF。

1992年 サイトウマコト監督 TV ドラマ「マコトノハナシ」撮影。

デヴィッド・ボウイ写真集『氣』。

長野清志郎『メンフィス』CD ジャケット。

日本競馬会「JRA '92 集合 納屋篇」ポスター、TVCF、シャープ「液晶ビジョン おすもうさんと男の子」、JR 東海旅客鉄道「秋の京都キャンペーン」、ダイハツ興業「Opti 発言篇」、サントリー「香梅酒&香梅酒ソーダ 上海木馬篇」、東京シティ競馬「'92 トウンクルレース料金所篇」、リクルート「就職ジャーナル 君がつくるジャパン」、エースコック「スーパーカップこく搾り アパート篇」、日本生命「吉永小百合 18 歳篇」、ソニー「ソニーで会おうハーモニカ篇」、麒麟ビール「麒麟ラガービール 二人の青春篇」TVCF。

1993年 日産自動車「サニー 我が家のサニー公園篇」、丸井「丸井のギフトホワイトデー篇、父の日篇」、サントリー「ビックル ビックミラクルおいしい篇」、麒麟ビバレッジ「麒麟ポストウォーター 歌篇」、ネスル日本「ネスカフェ缶コーヒー サンタマルタ秋篇」TVCF、新潮社「新潮文庫」(永瀬正敏) 新聞広告など。

1994年 プリンセスプリンセス写真集『思い込んだら質実剛健』

トヨタ自動車「トヨタカレン 風と共に去りぬ篇」TVCF。

1995年 舞台「浮き雲」ポスター、JR 東日本「その先の日本へ 山形・平泉」、サントリー「サントリーリザーブ&ウォーター ROCK'S キッチン篇、鮭篇」「ザ・カクテルバー 恋の温泉篇、恋の花火篇、U.F.O. ダンス篇」、トヨタ自動車「トヨタカレン エマニエル夫人篇、燃えよドラゴン篇」TVCF。

1996年 サントリー「ザ・カクテルバー 愛だろアロハ」、JR 東日本「東北大陸から。44 歳、岩手県イーハドーブ。篇」TVCF、新潮社「新潮文庫」(小泉今日子) 新聞広告など。

1997年 サントリー「ウーロン茶 音楽室篇、路面電車篇」TVCF。

1998年 サントリー「ウーロン茶 風と帽子篇、スチュワードスの春篇」、トライグループ「家庭教師のトライ 父の夢篇」、大塚製薬「カロリーメイト DIET&カード篇」TVCF。

1999年 是枝裕和監督作品『ワンダフルライフ』スチール撮影。

写真展「ワンダフルライフ」、写真集『映画ワンダフルライフ その登場人物たちと撮影現場の記憶』

写真展「T-REX」、写真集『T-REX』

トライグループ「家庭教師のトライ ともだちの先生篇」、コスモ石油「機械が苦手な老夫婦篇」TVCF。

2001年 田中麗奈主演インターネット配信作品『好き』より、『波』監督・撮影。画像集『波』。中外製薬「グロンサン強力内服液、キャッチボール篇」、サントリー「モルツ 本上まなみ湯上がり篇、原田芳雄居酒屋篇」、日清食品「カップヌードル 30 周年 I LOVE YOU 30 周年篇」、大塚

製菓「カロリーメイト 職員室篇、模擬試験篇」TVCF。

2002年 写真展「マーク・ボラン&T.REX」(ロンドン)参加。
鋤田正義+マーク・ボラン「レターセット」発売(カラーフィールド)。
TV番組「チョコレート・イン・ザ・ボックス」レギュラー出演。
布袋寅泰『SCORPIO RISING』CDジャケット。
大塚製菓「カロリーメイト がんばれワカゾー!」、キリンビバレッジ「冬の温キリン
中学生篇、チームメイト篇、兄弟篇」、トヨタ自動車「カローラ スパシオ海水浴」、サントリー
「角瓶」TVCF。

2003年 KDDI「デザインの前と後ろで篇」、全日本空輸「ANA 中国 もう一人の自分篇」、マスタ
ターカード「Mastercard キャンプ篇」TVCF。

2005年 是枝裕和監督作品『花よりもなほ('06年公開)』スチール撮影。

2006年 オリジナル・ラブ『キングス・ロード』CDジャケット。
「花よりもなほ」写真集(講談社)
『音楽と人』浅井健一 撮影
『MacPower』オレタチ 撮影

2007年 イ・ビョンホン写真集『パライ 月と日』(角川SSコミュニケーションズ)。
『風とロック』木村カエラ 撮影
Ailie 撮影
『ぴあ「日本のロック写真史 ANGLE OF ROCK」』写真集参加
写真集「T.REX 1972 SUKITA」(カラーフィールドパブリケーションズ)

2008年 東京ムードパンクス 撮影
布袋寅泰 東大寺live 撮影
忌野清志郎 完全復活祭 撮影

2009年 清竜人「Morning Sun」PV撮影

2010年 高橋優「素晴らしき日常」「ほんとのきもち」PV.ジャケット撮影
グループ魂「ラブラブエッサイム '82」ジャケット撮影
YMO写真集『Yellow Magic Orchestra×SUKITA』(TOKYO FM出版)
TVCF「ダイワハウス」(役所広司主演シリーズ/～2011年)

2011年 AKB48「桜の木になろう」PV撮影
黒猫チェルシー『NUDE+』ジャケット撮影
高橋優「福笑い」「誰がために鐘は鳴る」PV.ジャケット撮影、アルバム『リアルタイ
ム・シンガーソングライター』ジャケット撮影
イヴォンヌ・エリマン コットンクラブ来日Live ポートレート撮影
寺内タケシ撮影
内田裕也撮影
ゼラチンシルバーセッション「写真家による作品のチャリティー販売」参加
高橋優「誰もいない台所」ジャケット、PV撮影、セカンドアルバム「この声」ジャケ
ット撮影
KLEE Inc「東京画」写真展参加

2012年 FujiFilm FinePix™X 100™CM 撮影

布袋寅泰 さいたまスーパーアリーナ Live 撮影

英国のジェネシス社よりデヴィッド・ボウイとの共著となる写真集『SPEED OF LIFE 生命の速度』（写真下）を発売。

集英社より写真集『SOUL 忌野清志郎』発売

高橋優「陽はまた昇る」シングル撮影



BOWIE×SUKITA 『SPEED OF LIFE 生命の速度』

David Bowie と勳田正義のサイン入り限定版。こちら、Bowie の歴史を綴った写真集は 2000 冊の限定版で、全て手作業で綴じられています。Genesis 出版と David Bowie の共同制作 10 周年を記念して出版されます。

特別制作のプレス・レコード付きです。1980 年にレコーディングされた David Bowie の 'It's No Game' のパート 1 と 2 が、初の 7 インチレコードになり、セットで付いています。

重量感あるつや消しタイプのアート紙に印刷されている限定版は、David Bowie 本人が選んだターコイズ色の布で仕上げられ、背の部分は、特注の色で染色された子牛皮で、手作業で綴じてあります。

この作品集は、鋤田正義のアーカイブから慎重に選ばれた、300ページにわたる写真とエッセイと共に1972年から今日までの非凡なボウイの歴史を紹介しています。

こちらの80パーセント以上の写真は今まで未発表のものばかりです。1972年のセッションから、最近までの作品を集め、最高の技術でプリントされています。これらを、Bowieと鋤田自身のキャプションと共に紹介しています。

David Bowie: 鋤田さんが1972年から僕の写真を撮っているなんて信じられないけど、本当なんだよね。これからもずっと、彼がシャッターを押し続けてくれることを願っているよ。

鋤田 正義: 本当に長い付き合いだけど、ここでおわりませんよ。まだまだ後ろ姿を追っかけますよ。

70年代の出会いから、1980年まで、鋤田正義は20回程ボウイを撮る機会がありました。歳月をかけて二人の間には特別な関係が生まれ、Bowieの人生と仕事の重要ポイントには、いつも鋤田のカメラがありました。

Bowieの素晴らしいコンサートや、プライベート・リハーサル以外にも、数々のスタジオ撮影と共に、鋤田のレンズは京都の地下鉄に乗る彼や、Iggy Popの誕生日の時など、Bowieの日常のさりげない瞬間もとらえてきました。

鋤田 正義: David-sanが滞在していた京都から電話があった。もう彼は京都人だった。庶民的な商店街や京阪電車に乗ったり、夜はディスコへも行った。誰も彼に気づいていない様子...

David Bowie: 知らない街を知りたい時は、手持ちの小銭を数えて地下鉄に乗る。そして、その小銭で、行ける所までいくんだ。これが一番の方法だね。そして、到着地の辺りを散策するんだ。この前、2004年に最後に東京へ行った時に、僕はこれを何度かやったよ。

鋤田 正義: 『戦場のメリークリスマス』のサウンドトラックを買って、このフォトセッションに持って行った。この顔のアップショットを撮りたいと申し出たら、Bowie-sanはすぐにバックグラウンド・ミュージックとして『戦場のメリークリスマス』をかけてくれた。そして彼の顔は、大きな表情はないものの、静かでとても奥深い表情に変化していった。感動的な撮影時間を持つ事が出来た。

David Bowie: 彼からセッションの依頼があると、やさしくて、独創性があるって、心の広い彼が目に見えてくる。セッションなんてとてもつまらなくて飽き飽きするのに、彼のセッションはそうじゃないんだ。とてもリラックス出来るし、退屈しないんだよ。

[CONTENTS]

1972年、スタジオ撮影、ロンドン；レインボー・シアター公演；Lou Reedとバックステージにて。

1973年、ポートレート撮影、RCAレコードにて；記者会見とレコーディング、RCAスタジオ；リハーサルと本番、ラジオ・シティ・ミュージック・ホール；日本、横浜港到着；記者会見；初の日本ツアー；山本寛斎の衣装合わせ。

1977年、Heroes撮影；Iggy Pop, 30歳の誕生日；IggyのアルバムThe Idiotの記者会見、東京。

1978年、The Isolar II - 1978年ワールド・ツアー（The Low/Heros ワールド・ツアー）、マディソン・スクエア・ガーデン；山本 寛斎と；ホテルでのプレス・インタビュー；The Isolar II -

1978年、ワールド・ツアー、日本。1980年、京都の地下鉄、地元商店街とディスコ；Coco Schwabと京都の茶室にて；マネキンと時計の撮影、東京。

1983年、Serious Moonlight ツアー；記者会見；テレビ出演；友人宅でくつろぐ。

1989年、ニューヨーク、スタジオ撮影；ポートレートとTin Machineのアルバム・カバー撮影。

1990年、Sound + Vision 記者会見とツアー。

1992年、Tin Machineのスタジオ撮影；It's My Life ツアーのリハーサルと本番、日本。

1996年、Outside ワールド・ツアー、日本。

2002年、コロンビア・レコード発売、Heathen アルバムのカバー撮影。

2003年、A Reality ツアー、リハーサル、ニューヨーク。

2004年 A Reality ツアー、日本。

2009年、ポートレート撮影。

以上、ジェネシス社のサイトより引用。

【主な作品集】

1967年 『Folk Singers'』 日本楽器製造株式会社（右／表紙と中ページの森山良子など撮影）

1972年 『T.REX 1972 SUKITA』

1980年 沢田研二写真集『水の皮膚』パルコ出版局

1983年 土屋昌巳写真集『Alone』CBS ソニー出版

1989年 ミステリー・トレイン写真集『MYSTERY TRAIN-A Film by JIM JARMUSCH』ビクター・ブックス

1992年 デヴィッド・ボウイ写真集『氣』TOKYO FM 出版

1994年 プリンセス・プリンセス写真集『思い込んだら質実剛健』

1999年 『映画ワンダフルライフ その東京人物たちと撮影現場の記録』アーティストハウス T.REX 写真集『T.REX PHOTOGRAPHS BY SUKITA』カラーフィールド

2001年 『鋤田正義画像集「波」好きという思いをひもとく数十篇の小文とともに』マーブルトロン

2006年 『花よりもなほ』写真集 講談社

2007年 イ・ビョンホン写真集『パライ 月と日』角川SSコミュニケーションズ

2010年 YMO写真集『Yellow Magic Orchestra×SUKITA』TOKYO FM出版

【参考資料】

鋤田正義はカメラを用いるストーリーテラーである。どの写真にも物語性が色濃くにじみ出ている[寺山修司]



▲1970年『カメラ毎日』11月号「“ラ・ママ”に寄せて「毛皮のマリー」の思い出と髭をはやしたカメラ野郎」より

鋤田正義は感性を武器にして一つの美学をめざす写真家であり、おそらく彼の写真をみるかぎり、その意志は徹底しているようにみうけられる[吉増剛造]



◀1973年 新聞記事「フォトグラファー'73」より

70年代にロンドンでデヴィッド・ボウイや T-REX を撮影。その 50 年にもわたる活動の中で写されてきたものはただのポートレートでなく、戦後の日本人が見た、20 世紀の文化史でもあった[熊谷朋哉(SLOGAN)]



(71年) 当時の鋤田氏は広告カメラマンとしての実績を重ねる一方、例えば原爆をテーマにしたドキュメンタリー的な写真を撮り、伝説的な写真誌『カメラ毎日』では写真の実験を繰り返していた。

「広告は広告として必死にやりつつ、自分の写真家としての居場所を探していたんでしょうね。まだ若かったし、今起きていることをこの目で確かめたいなど、居ても立ってもいられなかった」

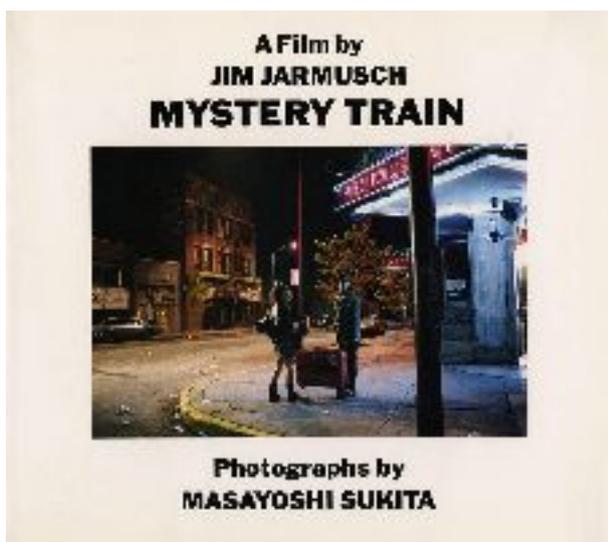
30年以上にわたって撮り続けてきたデビッド・ボウイの写真集をロンドンの出版社ジェンネシスから発表する。ドキュメンタリーとして、また芸術としてのポートレートを後世に残す作業は、洋の東西を超えた文化の交流でもあった。

◀2006年6月25日『毎日新聞』「BackSTAGE」より

ミステリー・トレイン写真集『MYSTERY TRAIN-A Film by JIM JARMUSCH』発刊によせて[ジム・ジャームツシュ]

『ミステリー・トレイン』は 1988 年のとても暑い夏、テネシー州メンフィスで撮影された映画です。この写真集はホーム・ムーヴィーのように、あるいは大切な写真アルバムのように映画への想いを大切に手に取ってもらえることを願って作られました。映画のスチールはもちろん、撮影現場のキャストやクルーの写真も入っています。その中のふたりの人物なくしては、この本や映画そのものも存在することはなかったでしょう。

そのひとりにはロビー・ミュラーです。17 世紀のフェルメールやテル・ボルフのような光を自在に操る室内画家と同じように、この宇宙で最も偉大なライティング・カメラマンである彼と同時代を生きているという幸福な偶然に、私は感謝せずにはいられません。映画と写真集で、ロビーがクワイエットした光をご覧になることができます。



そしてもうひとは「マサヨシ・スキタ」です。猫のような動きと神秘的な動物を思わせる眼で、スキタはセットの間を縦横無尽に動き回り、ここでご覧になれる写真を撮りあげていたのです。

『ミステリー・トレイン』の撮影が終盤に入った頃、キャストとクルーの全員がスキタと彼のアシスタントであるマーク・東野に対して、とても親密な想いを抱くようになりました。ザ・チャンプスの歌「テキーラ」を皆で歌い始め、“テキーラ！”のかわりに、“スキータ！”と歌うようになっていたのです。

1989年12月 NYC